

# 「現代社会と技術」の授業

— 高等学校普通科における技術に関する選択科目 —

森 下一 期

まず、一学期末のレポートの一部を紹介しよう。O.Lをテーマにした「東芝の一女性社員の取材より」と副題のついているK・Aさんのものだ。

「まず、私がこの『現代社会と技術』というクラスをとったのは、その案内の文章に、確か『実際に働いている人の工場を見学したり』というような内容が書かれており、かねてから職種はなんであれ、その職場の雰囲気、その個人の仕事内容を見てみたい、知りたい、という気持ちがあったからである。

そこで、唯一、一人、取材した。本当は五、六人は生の話しを聞きたいところだったが、時間も無い。でも私はその人との会話で多くの利を得た。八割がた満足をしてしまった。

— 略 —

そこで私は深く思った。職は真剣に今から考えてないと危ないな、何がやりたくて、どうしたらできるのかという具体案。それを考えなかったらその人の責任でつまらない不満だらけの気持ちにずーとなってしまっただろうし、仕方がないと思う。

そんなことを感じた取材でした。

働く、社会の一員、企業の一員として働くことの重さみたいなものを感じ、仕事に対する誠実な気構えを感じた。結構おもしろそう。

やりたい、いい仕事に就けるように、いろんな経験を今からしなくちゃと思う。

働く、ことにすぐくポジティブになった私です。

と思ったのに、今朝駅でこういうチラシをもらった。  
『健康を売る、雪印が従業員の生活と健康を犠牲にして大儲け。社長は明白な不当差別もやっていない』とホウカウカウ。

ない中の一つであろう。それが可能となったのは、中学校が併設されており、技術科の設備を活用できたからである。ちなみに、教科担当も中学の技術科の教師だ。

の人との会話で多くの利を得た。八割がた満足をしてしまった。

からしくちやと思つた。

働く。ことにすこくポジティブになった私です。

と思つたのに、今朝駅でこういうチラシをもらつた。

『健康を売る』雪印が従業員の生活と健康を犠牲にして大儲け。社長は明白な不当差別も、やっていない」とホウカむり。こういう雪印でつくる製品では消費者も安心できません。』とある。『3K』ともある。「きつい、汚い、危険、臭い、暗い、帰れない、高温、勤務が早い、過労死、ヤカましい、カッコ悪い、給料が安い、休暇がとれない」これはいったい何でしょうか？品質事故までおきているらしい。

さらに下最悪なことに争議団に入っている人は不当差別を受けている。同期入社の人と比較して昇進が全然異なり、年収で言えば二五〇万の差もある。

雪印もいわば有名な企業の一つである。全く。

その辺のことも、色々知りたいなと思う。そういう陰の部分はないかな取材ができないし、またこんど。」

### 一 選択科目「現代社会と技術」

和光高校では、一四年前から、選択科目として技術教科を設置してきた（二年生で機械関係、三年生で電気関係各一科目各二単位。名称は若干変化してきている）。必修の技術科の設置という意見は通らず、選択科目に落ち着いたが、普通科で工的分野の専門科目を設けた例としては数少

ない中の一つであろう。それが可能となったのは、中学校が併設されており、技術科の設備を活用できたからである。ちなみに、教科担当も中学の技術科の教師が兼務してきた。教科内容としては時間数の関係からも入門的な内容に留まっている。

それらに加えて、一九九一年度より二年生の選択科目として「現代社会と技術」が設置された。高校普通科における技術教育、職業教育を検討する中で、専門教科の充実をはかるとともに、幅広く技術、職業の問題を考える場も必要であることが確認されて設けられた科目である。

和光における選択科目は、二年生では各二単位の必修選択が四枠（九三年度より三枠となり、一枠は自由選択となる）、三年生で各二単位の自由選択が七枠設定されている。二年生のA1という選択枠は、一一科目開講され、九月下旬、科目ごとに四日間の研究活動が実施される（九科目が宿泊を伴い、二科目は近郊で見学、調査の活動をする。なお、学級数は一学年六学級なので、各科目の定員は三〇名以内で、定員に達している科目は三つほどである）。

このA1の科目を列挙すると「古典文学研究」「地域研究」「郷土史」「生物研究」「地学研究」「宇宙の科学」「音楽研究」「舞踊研究」「絵画」「工芸」と本科目である。

生徒は選択資料に掲載された科目の紹介と説明会での教

師の解説によって選択希望を出す。その上で、第一希望も、第二希望も一時間のオリエンテーションの授業を受けて登録する。「現代社会と技術」は、登録時にも定員を一名オーバーした。定員をオーバーした科目は他に一つあっただけだから、生徒の関心が高かったと言ってもよいだろう。科目の紹介を掲載しておこう。

『近年、情報化社会とか、コンピュータ社会といった言葉があふれている。これは、現代の科学や技術の急速な発展を象徴している言葉といえるが、現代社会は科学技術と切り離しては語るができないということを示している。科学技術の変化は人々の生活に大きな影響を与えているが、労働の職業の分野ではより根本的な変化を引き起こしている。一世紀前には農業労働から工業労働に中心が変化している。現在はどうだろうか、第三次産業といわれるサービス労働に従事する人々が急増している。君たちが出ていく社会ではどうなっているだろうか。機械を自分で操作するような仕事はなくなっているかも知れない。この講座では、激しく変化している社会を、科学技術の発展の影響を直接的な受けている労働とか職業、といった視点から探ってみることを課題としている。

労働がどのような要素から成り立っているか、といった基本的なことは学習するが、君達自身による調査、見学、

研究活動を中心に据えたいと考えている。例えば、「\*産業におけるロボット化の実態」「自動化工場と人間の労働」「情報産業」「コンビニエンスストアでの仕事」「フリーターの生活」「マスコミでの仕事」「ソフトウエア労働」「現代の職業病」といったテーマをもって自分で調べ、確かめ、受講者相互に交流し、深めることを期待したい。研究旅行は工場や企業、店舗での労働の実態の見学が中心となるだろう。現代技術への理解を深め、自分の職業を自分でつかみとる基礎となることをめざす。』

冒頭に紹介した生徒のレポートにも書かれていたが、現実の生産や労働の場に足を踏み入れることが生徒の一定の関心を引いたものと思われる。

## 二 授業内容

一 学期の授業内容は以下のようなものであった。

3・5 オリエンテーション

4・16 労働と生産 §1 第二次産業の位置

(1) 「製造業は永遠です」

(2) 「豊かさとは何か」

4・23 つくることについて

§2 労働過程  
——参考『町工場の境界』（小関智弘）

- 5・7 (2) 鉄の道具を経て中世へ
- 5・14 (3) 近代世界へ向かって—鉱山技術、大気汚染機関、紡績・繊維工業の発達

- 25 トヨタ自動車 見—高山で宿泊
- 26 乗鞍まわりで野麦峠に行く—乗鞍宿泊
- 27 松本、岡谷、蚕糸博物館、宮坂製糸見学—上諏訪宿泊
- 28 青森の真田、

受けている労働とか職業、といった視点から探ってみることを課題としている。

労働がどのような要素から成り立っているか、といった基本的なことは学習するが、君達自身による調査、見学、

4・23 つくる「ことについて」  
——参考『町工場の磁界』（小関智弘）

8.2 労働過程

25 トヨタ自動車 見—高山で宿泊

26 乗鞍まわりで野麦峠に行く—乗鞍宿泊

27 松本、岡谷、蚕糸博物館、宮坂製糸見学—上諏訪宿泊

28 青梅の東芝工場を見学

といった内容で計画されている。

三 調査グループとレポート

調査グループは次の九つができた。

コンビニエンスストアー 男二名、女二名

同 女二名

自動車産業 男四名

OLの実態 女五名

電化製品 男四名

物流 男五名

通信電信 女四名

3K労働 男一名

ファミリーレストラン 男二名

- 6・4 職業、技術、産業の調査研究の提起
  - (5)機械制大工業の確立と発展 互換性生産、動力機械、流れ作業
  - (6)機械労働の特質 制御の問題  
六時間目調査活動
  - 6・18 (7)制御の自動化とコンピュータの発達  
六時間目調査活動
  - 6・25 東芝科学館を見学（インタビュー）
  - 7・2 レポートの一部を提出し、検討
- 冒頭に行った現代日本の産業の特質については比較的関心を持って聞いていたが、技術史的な内容については今一つ関心を引き出すことができなかった。今後、内容整理、展開の工夫を図らなければならないところである。
- なお、9・25～28 研究旅行は

調査は二時間続きの授業の後半十六時間目から放課後にかけて行った。他に時間を見つけて行っていたグループもある。調査はそれぞれのグループで行ったが、レポートはテーマを分担し、一人ひとりが独自なものを書くことを課題とした。レポートのテーマをいくつか紹介しよう。

M・O 『セブンイレブンとサンクスのメジャーVSマイナー・エンドレス・ウォー』

M・N 『日本のOLの実態と今の日本の社会のあり方』

T・N 『現代社会と洗濯機―人間はほとんど単純化する』

K・M 『自動車産業の抱える様々な問題』

T・I 『自動車修理・修理工場について』

H・S 『3K労働と日本の将来』

M・N 『これからどうなるの?―電話・通信』

T・K 『自動車産業―トヨタシステム』

Y・A 『バック屋』

などで、四〇〇字原稿用紙一〇枚をめどとしたが、多いものでは三〇枚を超えた生徒もいる。

#### 四 レポート『セブンイレブンとサンクスの

メジャーVSマイナーエンドレスウォー』

レポートの目次とほんの一部を紹介しよう。これは、コンビニエンスストアのPOS（販売時点情報管理）に関するR・Oさんのものである。

はじめに

今、どこにでもあるコンビニエンスストア―いつも開いていて、いつもきれいで快適な、私たちがよく利用しているコンビニエンスストア。そのシステム、実状などを深く

さぐり、知りたいと思いました。そこで、今回は、「メジャーVSマイナー」をテーマとし、学校の近くにあるコンビニエンスストアを調べてみました。

メジャー代表を、セブンイレブン、マイナー代表をサンクスとし、私たちは、坂の下のセブンイレブン、学校から一〇分くらい歩いた所にあるサンクスへ突然おしかけて、インタビュ―してきました。

私は、インタビュ―の他に、セブンイレブンについて特に調べました。セブンイレブンがメジャーになったわけ、メジャーへの道を追求めました。

そして、コンビニエンスストアには欠かすことのできないPOS（販売時点情報管理）についても理解するため、POSについての本を参考にまとめてみました。

項目（内容略）

§1 セブンイレブンとサンクス

1 セブンイレブン

セブンイレブンの誕生―そして成長

セブンイレブンの組織

セブンイレブンのサービス

2 サンクス

サンクスとは

サンクスの組織

### 3 インタビュ―

§2 広がるPOSシステム

1 POSシステムは消費者にも役立つ

2 企業のPOS導入

コンビニや、スーパーでの、レジの見方が変わってきました。これがPOSシステムか、ってかんで、ふつうの人があまり知らないようなことを知った気分です。

はじめに

今、どこにでもあるコンビニエンスストア。いつも開いていて、いつもきれいで快適な、私たちがよく利用しているコンビニエンスストア。そのシステム、実状などを深く

## § 2 広がるPOSシステム

1 POSシステムは消費者にも役立つ

2 企業のPOS導入

3 コンビニエンスストアとPOS

## § 3 セブンイレブンとPOS

1 POSデータ

2 POSシステムをつかって

おわりに

ここまでで、私のレポートは終わりとなります。このレポートの計画を行っているときは、ただ、コンビニへ行っ  
て、インタビューして、その結果なんかを載せて終わる  
つもりでしたが、突然の「POS」の登場により、いきな  
りめんどくさくなった気がしました。私は、「POS」な  
んでぜんぜん知らなかったし、聞いたこともありませんで  
した。先生にかりた本や、図書館の本で調べたけれど、一  
度読んだだけでは、なかなかわからないし、VANとか、  
JANとか、SAとか、いろんな用語が出てきて、それを  
いちいち調べないとPOSはよく理解できないので、思っ  
た通り、めんどくさくなりました。しかし、収穫もありま  
した。今の小売り業をゆくPOSシステムを大まかですが、  
理解できたというのは、すばらしいことだと思います。コ

## 2 サンクス

サンクスとは  
サンクスの組織

ンビニや、スーパーでの、レジの見方が変わってきました。  
これがPOSシステムか、ってかんで、ふつうの人があ  
まり知らないようなことを知った気分です。

今回は、セブンイレブンとサンクス——特にセブンイレ  
ブンとコンビニというのは、現代の社会がコンビニ、技術  
がPOSシステムで、現代の社会と技術が見事にマッチし  
た、総合情報産業へとなりつつあります。

## 五 おわりに

紙数の関係でわずかしか紹介できないが、足で調べ、本  
で調べたことが自分のものになっている。POSについて  
も的確に捉えられており、レシートの実物で比較するなど  
の工夫も見られる。

高校二年生がこのように職業や産業、そして技術や労働  
に関心を持ち、鋭く問題を捉えていくのをみると、高校普  
通科の教科目の内容に欠けたものがあるのではないかと思  
わざるを得ない。生徒が能動的に働きかけることのできる  
場を用意するならば、積極的な学習活動が展開されることも  
確認することができた。

なお、二人のレポートはワープロに打って授業の生徒  
全員にフィードバックするようにした(総ページ一五〇頁  
となった)。

(和光高等学校)